

第1回秋田県心身障害者コロニーあり方検討会の議事概要

○日時 令和5年6月5日(月) 13:30～15:30

○場所 秋田県庁第2庁舎8階会議室

○出席者 委員12名、事務局(県、社会福祉事業団)

○議事

議事に先立ち、委員の互選により藤井委員が会長に選任された。また、会長の指名により鈴木委員が副会長に決定された。また、議事①～⑤での主な意見は次のとおり。

議事①検討会の設置目的と進め方について

※意見なし

議事②秋田県心身障害者コロニーの現状と課題について

議事③地域移行、強度行動障害に係る国等の動向について

- ・知的障害者が入れる特別養護老人ホームは少ない。知的障害者が高齢者施設に入れるようなスキームを作っていく必要がある。
- ・高齢で介護が必要になると、グループホームや入所施設だけでは対応できない。重度化や高齢化に対応し、介護ができる施設の整備を前提に話を進めていく必要がある。

議事④論点整理に向けた意見交換について

- ・一般的な施設運営は自前で運営できることを前提に考えるが、コロニーについては、新たな機能を持たせる、政策的に意義のある施設にする等、現状の報酬体系では賄いきれない部分もあり、行政的なサポートもないと実現できない部分が多い。
- ・一人ひとりの利用者のニーズというものを最優先にしていくのか、地域移行を優先するのかによって、論点整理の方向性が大分変わってくる。
- ・入所施設に入っている人で地域移行できる人はほとんどいない。地域移行を否定する訳ではないが、医療や介護をどうやってサポートするかという話になる。
- ・障害者支援施設は“地域”ではなくて、グループホームは“地域”なのか、秋田市は中心部に障害者施設が設置されているがこれは“地域”ではないのかなど、そもそもの“地域”ということをもっと考えなくてはならない。
- ・現場では、グループホームで障害者支援施設と同等水準の生活を維持するのは難しいと考えている。入所者の個別ニーズに応えるサポートの中身が重要である。地域移行を無理に進めることで利用者に不利益が生じることもある。
- ・住み慣れたところで生活したいというニーズが非常に高い。親亡き後が重要視されているが、親が亡くなる前もきちんと考えるべき。今後、8050問題に対応していく中では、いかに住み慣れた場所で生活を継続できるかという視点が重要である。
- ・強度行動障害の専門施設や専門的スタッフを育成し全県に発信していく、あるいは研修の中核を担っていくということも、一つのあり方としては良いのではないか。
- ・重度化・高齢化した方や強度行動障害の方が、グループホームに行ったら本当に状態が安定するのか、非常に疑問を感じる。重度化・高齢化に対応するには、夜間も最低2人は必要になる。地域移行の前に、利用者の現実を踏まえた議論を期待したい。

議事⑤入所者及び保護者へのアンケートの実施について

※6月下旬を目途に、アンケート事務局案に対し各委員から意見をもらうこととした。

○その他

事務局より、次回検討会の開催日程とコロニー現地視察(案)について説明を行った。次回検討会は、本日の意見も踏まえながら、事務局において主な論点(骨子)を整理した上で、意見交換を行うこととした。